

ソシオ研究

## 大学における書の教育活動と地域交流の実践

——初等教育ソシオ2008「書道のワークショップ」——

森 哲 之\*

University Calligraphy Education and Community Relations in Practice

——The Department of Elementary Education's Activities to Implement  
the SOCIO Project 2008: Calligraphy Workshops——

Tetsushi MORI\*

### はじめに

教育活動が地域への貢献となる広島文教女子大学「ソシオ活動」が昨年度より始動した。人間科学部初等教育学科では、芸術系教育の領域において、書道・図工のワークショップを、それぞれ2007年11月に開催した。その実践については、『広島文教教育』第22巻で報告し、大学ホームページにも掲載した。初等教育学科ソシオ活動は、引き続きその取り組みを強化すべく検討され、その後、2008年度の本学「教育・研究活動支援プログラム」に採択された。

児童教育コース・書写書道専修が企画運営する書道のワークショップには、新たに国語専修の協力体制が加わった。一方、図画工作専修が企画運営する図工のワークショップには、幼児教育コースの図画工作ゼミが加わった。主幹となる書写書道専修と図画工作専修は継続して連携を取り、初等教育学科ソシオ活動を推進しながら、教育研究活動を行っている。本稿では、

2008年度の書道のワークショップについて、その実践を報告する。

### 1. 大学における書の教育活動と地域交流

大学が地域との交流を積極的に推進していくことは、地域に根差す大学にとって重要な役割の一つといえよう。近年、大学や多くの教育機関において、その教育研究の成果が様々なかたちで地域へ還元され、また、地域と共同した活動等が多方面で見受けられる。本学では、昨年度より教育活動が地域への貢献となる組織的な取り組みを各学科で推進し、初等教育学科においては、芸術系教育を中心に、書道・美術の分野での検討がなされ、地域の方を対象とした書道・図工のワークショップを開催するにいたった。

このワークショップは、初等教育学科における特色ある教育活動を生かし、芸術文化の面白さ、楽しさ、よさに触れながら、地域の方とともに文化的活動を行うことを趣旨としている。基本的には地域の子どもを主な対象とし、同時に大人の方も参加できる内容としている。その内容は、学科の特性や専門性を生かし、文化や

\* 本学准教授

芸術に関する表現活動を中心とする。なお、この企画運営は、学生の教育活動の一環として、学生自身の制作や研究を深めつつ、そのアイデアを生かし、地域の方との交流を模索しながら進めているところである。

本年度については、基本的な方針は昨年度の実践を基盤として、新しい企画内容を立案し、発展させてきた。そして、地域の方と大学との交流拠点として、本学のギャラリーや専門教室を有効に活用した。なお、開催告知は、広島文教女子大学ホームページと新聞各社の折り込みちらしにより、本学「公開講座案内」に掲載した。その後、参加希望者には、当日の内容を伝える案内状を郵送した。

書道の分野についての企画は、書写書道専修の教育研究活動を中心に、学科の専門教育科目である教科教育学演習でその専門性を深め、教科教育に関する小学校国語科書写の学習内容から書の芸術表現にいたるものまで様々な企画を立案した。次に、本年度に開催した「書道のワークショップ」の実践内容について述べる。

## 2. 書道のワークショップ『書を楽しむ～ことばと文字のあそび～』

### (1) 書道のワークショップの概要

- 会 場……広島文教女子大学・1号館美術棟
  - 期 日……2008年11月22日（土）
  - 受 付……9：30～【1 F・美術棟ギャラリー】
  - 実 施……10：00～12：30【2 F・125書道室】
  - 参加者……61人（子ども32人、大人29人）
  - 担 当……初等教育学科 書写書道専修学生
  - 協 力……初等教育学科 国語専修学生
  - 内 容
1. オープニング

2. ご挨拶：本学初等教育学科ソシオ活動について（岡利道学科長）
3. 書道のワークショップについて（書写書道専修担当 森哲之）
4. スタッフ紹介
5. 学生・教員による書のデモンストレーション（参考作品・コーナー紹介、実演）
6. 書道のワークショップ《書を楽しむ～ことばと文字のあそび～》：「文字のジャングル」「ひらがなのひみつ」「漢字の時間」「われら絵手紙隊～絵と書であそぼう～」「仙人といっしょに大筆書き」など（作品づくり）
7. 共同制作：大きな旗づくり
8. エンディング

### (2) 書道のワークショップのねらいと内容

2回目となる書道のワークショップを、2008年11月22日、広島文教女子大学美術棟・125書道室において開催した。参加人数は、昨年の倍近くになり、子ども32人、大人29人、計61人であった。親子での参加を中心に、大人の方単独での参加もあり、関心の高さが窺えた。

書道のワークショップのテーマについては、学生からのアイデアを検討した。『書を楽しむ～ことばと文字のあそび～』と題し、「文字のジャングル」「ひらがなのひみつ」「漢字の時間」「われら絵手紙隊～絵と書であそぼう～」「仙人といっしょに大筆書き」のコーナーを設定した。書写書道専修学生の特色ある教育活動の一つに、作品制作や作品発表等が挙げられるが、そのノウハウを生かしながらの企画とした。そして、書の面白さ、楽しさ、よさに触れてもらい、あわせて、書の芸術環境を提供し、創作活動を楽しんでもらうことをねらいとした。

次に、本ワークショップ全体の流れについて、

事前準備、当日の内容、記録、感想等をまとめる。

### ① 会場設営、事前準備等

会場である専門の書道室については、参加者が書の活動を自然に取り組むことができるよう設営に配慮した。机上で制作するコーナーとして大型机を組み合わせ大きく4カ所、そして、教室後方には大作用の制作場所を設け、いずれも大型の毛氈を敷き詰めている。本教室は一般教室2室分程の広さである。

「文字のジャングル」については、オープニング等で集合する教室後方の左右スペースに、ジャングルをイメージした装飾を施した。そこには、学生が制作した参考作品を吊り下げ、参加者の制作の一助となるよう配置し、「動物やくだものをみつけよう」という呼びかけをした。

前方入り口より左列は、「ひらがなのひみつ」「漢字の時間」のコーナーを置き、基本的には、書写内容の取り組みとした。一方、右列及び後方には、「絵てがみ」「大筆書き」のコーナー、「共同制作」場所等を設け、自由な書表現の場とした。

そして、各コーナーには、書画の用具用材を配置し、自由に書ける環境を整えた。大きな毛筆、様々な種類の毛筆、墨、顔彩、硯、画仙紙等を用意し、あわせて制作の手がかりとなるよう、学生が事前に制作した作品を並べた。また、黒板や周囲には、書画を添えた。

当日の集合及び受付は、作品鑑賞の機会を兼ね合わせて、新設の美術棟ギャラリーで行った。ギャラリーには、学生と教員の作品、専修の活動を示す写真等を展示し、美術や書の世界への入り口とした。参加者には、受付の際、うちわや色紙等を手渡し、好きなコーナーで活用してもらうようにした。加えて、子どもには、りんご型の手作りの名札を用意し、名前を書いてもらい、着衣に付けられるようにした。

### ② オープニング、デモンストレーション、

### 各コーナー

オープニングは、学生による司会で進行した。本学のソシオ活動・ワークショップの趣旨、学生を中心として実演を交えた各コーナーの説明を行った。また、子どもたちを引き付けるデモンストレーションを適時行った。その後、参加者は興味関心のあるコーナーへ移動し、様々な書の体験を行っていった。そして、自由に各コーナーを巡回し、書くことの楽しさに触れてもらった。以下、学生の動きを中心に、各コーナーについて述べる。

#### 「ひらがなのひみつ」コーナー

ひらがなのコーナーの実演では、学生は台紙張りの大きな画仙紙を掲げ、ひらがなで大きく「あめだま」と書いた。ひらがなは円の丸さと関係していることを説明した。「あめだま」という文字の円転する動きを解説し、円を意識させた。

実際の活動では、墨を磨ることができるようにした。このことは、大きな円を描き書くことと、固形の墨を磨ることとを兼ね合わせている。磨墨の体験も、近年では新鮮な活動のようである。また、雷や風船の絵の線をなぞり筆づかいに触れるワークシートを用意し、制作の意欲を高めさせた。自分で磨った墨でワークシートを書き、ひらがなを書くときの筆遣いに慣れてもらい、作品に取り組んでもらった。さらに、ひらがなの線のパーツを用意し、組み合わせやバランスを考えることのできる手作りの教材を準備した。

#### 「漢字の時間」コーナー

漢字のコーナーでは、学生は、左右のはらいを見立てた「鳥の翼」ワークシート、縦画・横画の練習用の「土」ワークシートなどを用意した。「とりさんにツバサをください」との声かけで、左右のはらいを鳥の翼に見立て、楽しく基本的な筆づかいに触れてもらった。

実演では、「鳥の翼」ワークシートの拡大版を提示した。台紙張りの大きな画仙紙に、鳥の翼を見立てた左右のはらいを大きく書き示し、そして、それを応用し、子どもと対話をしながら「笑」字を範書した。席上では、好きな文字を半紙に練習し、コースターや色紙に完成させた。

#### ☞ 「われら絵てがみ隊」コーナー

絵手紙のコーナーの説明では、学生が寸劇を交えてユニークな説明を行った。絵を添えて、心のこもった手紙になるよう提案し、手書きによる手紙のやりとりを通して、そのよさや大切さを伝えようとした。顔彩等を使用し、家族への感謝の気持ちを書いているケースが多いようであった。

#### 「仙人といっしょに大筆書き」コーナー

「筆仙人」というキャラクターを想定し、仙人に扮した2人の学生が布で作った衣装を身に纏い、大筆を持ち、大きい紙を突き破り登場した。参加者は、筆仙人のインパクトに驚きながらも、関心が一層増していたようである。

大筆のコーナーでは、特大の筆を使って、全紙2枚(136×136 cm)程の大きな紙に好きな文字を書いた。身体全体を使い表現することをねらいとした。説明の際には、学生、教員による大きな書のデモンストレーションを行った。子どもも大人も、全身で書く姿に大変興味を持って見ていた。その後、子どもも大人も勢いよく大筆を揮った。

#### ③ 共同制作、エンディング

##### 「共同制作：大きな旗づくり」

大きな旗づくりでは、「文字のジャングル」というテーマで共同制作を行った。1枚の大きな旗に一人ひとりが言葉や絵を自由に表現し、皆で1つの作品を制作する取り組みであった。全紙3枚を繋げ合わせた大きな紙(136×204 cm)に持ち手を付け、事前に旗を用意した。「文字の

ジャングル」として、様々な文字やことばを思い思いに表現してもらい、共同制作とした。各コーナーでの様々な表現方法を生かしながら、ここでも、子ども同士の関わり合いによる表現効果やそれぞれの主張といったものが見られた。

##### 「エンディング」

エンディングにおいては、できあがった共同制作の旗を紹介した後、学生は、子どもたちに感想を発表してもらった。また、本日のワークショップの振り返りをしながら、子どもたちに感想を尋ねた。楽しかったことを子どもたちは答えてくれた。最後に、お気に入りの作品を持って記念撮影をした。

#### (3) 担当学生の感想・意見等

担当学生の感想・意見等を抜粋する。

- アンケートから、参加者の方々の思いを知ることができよかった。多くの方に「楽しかった」「おもしろかった」などのうれしい言葉をいただき、準備など大変なこともあったが、ソシオ活動全体を通して、学んだこと、感じたことなど、たくさん得るものがあった。私自身もとても楽しかった。実際に地域の方たちと触れ合いながらワークショップをさせていただいたことは、将来、小学校の教師を目指す私たちにとって、大変貴重な経験となり、勉強になった。そして、参加者の方々に喜んでいただけたことが何よりよかったとうれしく思う。
- 各コーナー、試行錯誤を重ね、自分たちなりに辿りついた結果を今回のソシオ活動・書道のワークショップで実行してみた。子どもたちの中には、初めて筆を使った子もいたようだ。いろいろ

ろな書に触れ、大きな筆で文字を書いたり、筆に墨や顔彩をつけて自由に文字や絵を書いたりしたことは、子どもたちの好奇心を刺激し、何かしら興味を持っていたことと思う。子どもたちの作品は、どれも個性的で、作品の意外性とこだわりに、見ているこちらがわくわくさせられ、大変興味が湧いた。迷いのない大筆さばきや、真剣に制作する姿、子どもたちの作品などを見て、子どもたちのこれからがとても楽しみに思えた。この活動の経験が一つの契機として、子どもたちが自発的に作品を作り、書道に愛着を持ってもらえれば、うれしく思う。

- 今年は、家族のみなさんでの参加の他に、大人の方だけでの参加があり、子どもばかりでなく大人の方にも関心を持っていただけでいた。今後の課題としては、子どもたちとより積極的に関わり、大人の方々も大いに楽しめるような配慮と環境づくりが必要だと思った。
- 書を楽しむことはもちろん、正しく整った文字を書くことも一方で重視し、とてもグレードアップした内容になったと思う。準備段階では、書を楽しむことと整った文字を書くことの両立に悩むこともあったが、みんなで協力してワークショップを成功させることができてよかった。
- 当日は、子どもたちの新鮮な表現や想像力には驚かされた。想いを素直に表現することの素晴らしさに改めて気づくこともできた。
- 各コーナーの説明も、去年より充実したものになり、子ども達も楽しそうに

していたのがうれしかった。今回はワークシートを用意したので、大人の方にも取り組んでいただけた。改良して、よりよいワークシートを目指したい。

- 今後、書きごたえのあるワークシートを作る。漢字コーナーでは、あらゆる点画のある「永」字を使ったワークシートが考えられる。ワークシート自体が作品となるようなものなども工夫していきたい。
- 報告・反省会により、全体で反省、気づき、今後の課題などの共通理解を行うことができた。報告・反省会を通して、振り返りを行い、今回学んだ支援の仕方を自分のものにできるようにしていきたい。
- 次回は、今年度の課題や反省を踏まえて、事前のシミュレーションをより丁寧に行い、当日の各コーナーの細かい動きを想定して、取り組めるようにしていきたい。
- ワークショップ後の反省会でみんなの意見を聞き、いろんな改善点や解決策が見つかった。頑張って良かったなという達成感があつた。参加者の方の何名かの方が来年も参加しますと言ってくださったことや、アンケートに回数を増やしてほしいとの意見をいただけたことがうれしく思った。
- 今回のワークショップは、これからの書道の創作活動への意欲と教師になることの決意を強いものにしてくれた。
- アンケートに書いていただいたことを基に、今後より一層、ソシオ活動が充実したものになるよう、努力していきたい。

たいと思う。また、このソシオ活動で学んだ技術や、気づいたことを、将来、現場に出た時に生かしていけるよう努力していきたい。

(初等教育学科書写書道専修学生 小溝千華 武田祐理 野津祥子 畠堀眞子 板垣明香 伊藤文希 金成めぐみ)

#### (4) 参加者の感想

参加者からはアンケートの協力が得られ、多くの感想をいただいた。一部を抜粋する。

〔印象に残ったこと、楽しかったこと、役に立ったこと〕

- 学生さんの活発さ、明るさ。分かりやすく子どもを導入されるアイデア。関心したことが多かった。
- お姉さんたちのがんばり。初めのあいさつで娘の緊張もとけ、すっかりやる気モードになりました。(親もです。)
- 絵手紙や大筆書きが楽しかったです。生徒さんがいきいき元気でとても良かったです。
- 幼児で字を知らなくても、楽しく書に触れることができて良かったです。大筆に一番興味があったみたいです。字も絵の感覚ですね。
- 大筆で書いたことがなかったので楽しかったです。遊び心で字を(筆を使って)書いたことがなかったのでこれからは楽しく“書”を書いてみたいです。
- 先生による「遊」を見せていただいたこと。作品を見せていただいたこと。大筆の体験とても楽しかったです。
- 大きな紙に大きなふでで書いた事は、子供にすごく印象に残ったと思います。

〔参加されたお子様の声(感想)〕

- 色を使ったり、墨をすったりできて楽

しかったようです。

- 楽しい!!次はこれをして!!などと積極的に取り組んでいました。
- 大きな紙に書いた後、「これすごく楽しい!」とすぐほうこくしてくれました。
- 大筆では「おりゃー!」となって夢中になって書いたそうです。

〔学生による支援や対応〕

- すばらしい☆とてもはきはきされ、工夫され、将来が楽しみです。小学校の先生が不足の今、是非、K小学校に来て下さい。お待ちしております。
- とてもいいねに教えていただけてよかったです。がんばってすてきな先生になってください。
- とても優しく「うまいよ!!」と言われて何回も書いていました。椅子に座って真剣な顔、久しぶりに見ました。
- 子どもの目を見て、優しくお話して下さって嬉しかったです。
- 優しく隣で付き合ってくれて、とても助かりました。
- とても親切に子どもたちに対応してもらい、ありがとうございました。
- とても感じのいい学生さん達で、嬉しかったです。準備も大変だったでしょうね。ありがとうございました。

〔全体(本学の教育研究活動)を通しての感想〕

- 外部の人を参加させることにより、学生さん方が、やる気、向土心など、活発になれるのではないかと思います。また、子どもたちと楽しく、活動できたと思います。また来たいと申しとおりました。ありがとうございました。
- 初めて参加して、初めは「場違い!!」と力が入りましたが、すごく分かりや

すい工夫がされていて、親子で関心したり、感動したりして、楽しめました。ありがとうございました。

- 初めての参加でしたが、とても良かったです。大学に来るということも新鮮で、もっと年に2回などやってほしいです。
- またこのようなワークショップ等、気軽に学生と一緒に学べるチャンスがあれば（有料で）年間通して、学んでみたいです。
- 我が子を連れて来たらよかったなと思いました。学生さんとのふれあうことによって視野が広がる良い機会だなと感じました。
- 習いたい！！と思いました。子どもを連れて一緒に楽しみたかったです。

#### (5) 書道のワークショップの成果と課題

今回の書道のワークショップでは、様々な書の体験を通して、自由な制作を行ってもらった。書の魅力を体感、再認識され、それぞれの方に喜びや発見があり、芸術文化により大きな関心を持ってもらえたように思う。ことばや文字へのこだわり、そして、あそびとしての魅力を加味することができたのではないかと考える。

今回も、各自が作品に創意工夫を凝らし、参加者の活動に相互作用が数多く見受けられた。ワークショップならではの成果であろう。親子、子ども同士、地域の方同士が双方向に学びあい、豊かな創造活動となったものと思う。地域の方と大学との書を通じた関わりにも大きな収穫があった。

新しい取り組みとしては、「ひらがなのひみつ」や「漢字の時間」等のコーナーで、小学校国語科書写の内容を応用した。そのことによ

て、他のコーナーとの内容の区別をすることができ、それぞれのコーナーでのねらいが明確なものとなった。また、国語専修の協力体制があった。書写書道専修と国語専修との内容面での協同をさらに検討していきたい。

### 3. 初等教育学科ソシオ活動・書道のワークショップ2008の総括

今回の本学科ソシオ活動・書道のワークショップでは、書に関する教育研究や、書を通じた地域の方との関わりに、一定の成果があった。参加者には、活動を楽しみながら、普段経験できないような芸術や文化などに触れてもらった。

今回のワークショップの案内も、昨年同様に、ホームページと本学公開講座のちらしに掲載した。折り込み広告の新聞社数の増加と配布範囲が広げられたこともあり、昨年と比較し、参加者数は大幅に増加した。本学科の教育活動を地域の方々に触れていただき、還元ができたのではないだろうか。

このようなイベントを開催するためには、その運営に細かな配慮を必要とする。その事前の計画から事後のまとめまでの一連の運営や、子どもや地域の方とふれあう機会は、学生にとって貴重な経験となっている。

一方で課題としては、参加者の幅広い年齢層や子どもたちの発達段階の差に対応できるよう、題材の工夫が必要であった。当日担当するスタッフの支援方法、造形活動の内容による材料・用具や設備の面についてもさらなる改善策が出てきた。

今回の課題を改善し、今後も継続した取り組みを考えている。また、初等教育学科ソシオ活動全般についても、様々な領域での展開に可能性があり、今後、連携強化等を図っていきたい。

【書道のワークショップ2008・会場風景】

このページには写真が8枚あります。



このページには写真が8枚あります。